

総会報告 坂本秀治会長が着任、次回大会は初開催地愛知県蒲郡市にて

9月15日午後4時半より、TKP品川グランドセントラルタワーカンファレンスセンターにて役員総会を開催した。
 定例の議題に加え、新たな役員として、山本恭子氏に替わり、新会長として坂本秀治氏（日本電信電話（株）執行役員）をお迎えすることが決せられた。山本恭子会長には、名誉顧問にご就任頂くこととなった。
 議事では、これまで議論を重ねてきた3人団体戦への移行前提とした大会要項設計により今次大会に適用することを改めて確認、今後各支部からの意見を吸収しながら活発な全国大会活動が繰り返られるように本部・各支部一帯で取り組んでいく旨を申し合わせた。また、節目と60回目の大会開催が近づいてきたことあるので、主管支部持ち回り予定のデータとJIPとで検討することが付言された。

- 【議事内容】
- (1)令和5年度までの連盟活動報告
 - (2)令和5年度までの会計報告、会計監査報告
 - (3)令和6年度役員選出（敬称略）
 新任 会長：坂本秀治 名誉顧問：山本恭子
 退任 会長：山本恭子
 - (4)次年度活動計画
 - (5)令和6年度予算案および年会費
 - (6)第59回以降の大会主管
 次回主管：東海支部
 時期：2025年9月 場所：愛知県蒲郡市
 以後の持ち回り予定：
 60回データ・JIP（共催）、61回関西、62回九州、63回東京



坂本 新会長

懇親会模様

前夜祭の懇親会では、恒例の支部ごとの翌日大会にかける決意表明のほか全国のNTTグループ内の組織、地域、年代を越えた弓友同士の交流が繰り返された。
 山本 前会長、小川副会長よりご恵みいただいた銘酒を美味しく参会者でいただいた。



主管支部の中央支部ご尽力のおかげで楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。



坂本新会長のご挨拶



松井副会長の乾杯



各支部による決意表明



翌日の大会を占う遠近競射(?)



山本前会長 & 小川副会長からご恵みいただいた銘酒



小川副会長の締めのご挨拶

御礼

本大会の開催にあたり、(公財)全日本弓道連盟様およびNTTグループ内各社様(持株、東、西)からご後援を頂きました。
皆様のご厚情に感謝申し上げます

NTTグループ 弓道

第七十二号
 令和6年12月2日発行
 東京都調布市入間町1-44
 NTTグループ弓道連盟
 発行責任者 頼政秀幸
 編集責任者 金子哲也
 撮影 窪田圭司

次回大会：
第59回NTTグループ全国弓道大会
 主管：東海支部
 開催日：2025年9月13日、14日
 開催地：愛知県蒲郡市民体育センター

◆ 第58回NTTグループ全国弓道大会、全日本弓道連盟中央道場にて開催 ◆

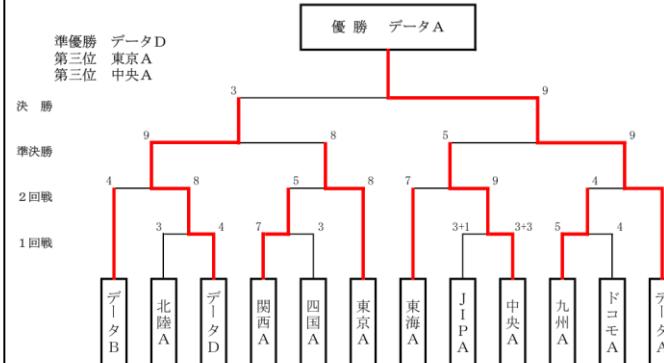
第54回大会以来5年ぶりに全日本弓道連盟中央道場（明治神宮至誠館第2弓道場）にて開催された。中央道場での開催を楽しみにしていた80名超の選手が全国から集い、時折秋雨が降る中、熱戦をくりひろげた。
 前夜祭となる懇親会は、アリスアークガーデン品川にて催され、恒例の決意表明や的あてゲームにより支部の枠を越えた会員相互の親睦を深めた。
 開会式は、新任の坂本秀治会長のもと執り行い、準備にご尽力いただいた主管中央支部や本部事務局へのねぎらいのお言葉をいただいた。主管支部を代表して、高木富美教士六段による矢渡（介添：五十川実千恵・佐藤哉子）の後に予選競技に入った。
 今大会より大会要項に大幅な改変をし、昭和57年第17回大会より永らく続けてきた各支部代表5人チーム対抗のトーナメント制による団体戦から、個人戦を兼ねた3人チームによる各支部複数参加可能な団体戦を予選とし、予選を勝ち抜いた各支部団体計12チームによるトーナメント制による方法で行われた。
 個人戦成績と団体トーナメント出場にかかる四ツ矢2回計8射を全員が午前中に行射し終え、団体トーナメント出場12チームとともに、個人戦1部（3段以下）、2部（4、5段）、3部（称号）の優勝者3名が決定した。決勝トーナメントでは、データ支部が善戦し、予選通過12チーム中3チームがトーナメント戦に駒を進め、トップタイ通過2チームのうちのひとつデータAチームが決勝で同門Dチームの挑戦を抑え、新制3人団体戦への移行後初優勝チームの栄冠を勝ち取り、データ支部としては通算7度目の本大会団体優勝を飾った。また、前回大会に続き東京支部と、40回大会以来18年ぶりに中央支部がともに第3位入賞を果たした。
 個人戦は、1部牧野雄一選手（東海支部）が嬉しい個人初優勝を果たし、2部林圭選手（データ支部）、3部宮川一彦選手（データ支部）が優勝した。
 各部の個人優勝者同士で争う個人総合優勝は、射詰競射の結果、3部宮川選手が通算2度目の栄冠に輝き、名越賞もあわせて獲得した。

大会結果 団体戦

本大会から団体戦は支部ごとの団体数無制限の3人制で執り行われた。競技方法は予選四ツ矢2回の上位12チームを通過（ただし各支部最高の中1チームを優先通過）とし、決勝では四ツ矢1回のトーナメント戦で勝敗を決する。
【予選】
 各支部枠を除く残り2枠を勝ち取ったのは、16中で1位タイのデータBと競射を勝ち抜いたデータDとなり、データが3チームトーナメントに進む結果となった。
【1,2回戦】
 <1ブロック>データDが快進撃。北陸に4-3で勝利後、予選1位通過のデータBに8-4と快勝し準決勝へと駒を進めた。
 <2ブロック>前回優勝支部の関西は1回戦四国に7-3と勝利するも2回戦ではシードを勝ち取った東京が8-5で勝利した。
 <3ブロック>JIPvs中央は3-3からの競射1-2で中央が勝利。2回戦では東海に9-7と大躍進を遂げ、準決勝へと勝ち進んだ。
 <4ブロック>九州はドコモに5-4と勝利するも、続く2回戦では予選1位通過のデータAが10-4と圧勝した。

【準決勝】
 <第1試合：データD-東京A:8>3本目終了時はデータ・東京ともに6中と、最後の1本に勝敗がかかる展開に。東京は留矢2本詰めるも2回戦でデータBを下したデータDの勢いが止まらず、3人とも留矢を詰めデータDが勝利。決勝戦へ。東京Aの3位が決定した。
 <第2試合：中央A:5-データA:9>最初1手で0-4と大きく差が開く展開に。後の1手で中央は5/6と勢いを取り戻すもデータは安定した的中を出し続けデータAの勝利。今大会主幹である中央Aは40回大会以来18年ぶりの3位が決定した。

【決勝】
 <データD:3-データA:9>
 決勝戦はデータ同士の戦いに。ここまで快進撃を続けてきたデータDだが、ここで失速。対するデータAは安定した的中を出し続け全員3中で勝利。トーナメントの中率77.8%と申し分ない結果で優勝を飾った。データ支部としては通算7度目の団体優勝となった。



団体戦 優勝 データ支部A

大会結果 個人戦 特別賞

午前中の団体戦と個人戦を兼ねた予選成績により、各部優勝者がそれぞれ確定した。
 各部優勝者同士による、個人総合優勝決定の射詰競射では、予選皆中の林選手が、団体戦3戦を戦い抜いた直後で疲労が募ったか、1回目で残念ながら失中し早々と敗退する。個人戦一部初優勝の勢いに乗る牧野選手と、平成24年の第47回大会にて個人戦総合優勝創設時、初代個人総合優勝を飾ったベテラン宮川選手との一騎打ちとなる。結果、宮川選手の貴祿勝ちで二度目の栄冠に輝いた。

個人部の部	一部 (参段以下)	優勝	牧野 雄一(東海)	5中	×	○	○	○	○	○	×	×	
		準優勝	大林 正幸(ドコモ)	4中遠近	○	×	×	○	×	○	○	×	
		3位	宮崎 健二(関西)	4中遠近	×	○	×	○	○	×	×	○	
		4位	平岡 直樹(関西)	4中遠近	○	○	○	×	○	×	×	×	
		5位	樋泉 清人(東京)	4中遠近	×	×	○	○	○	×	×	○	
	二部 (四五段)	優勝	林 圭(データ)	8中	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		準優勝	武田 健太郎(データ)	6中遠近	○	○	○	×	○	×	○	○	○
		3位	山本 輝子(北陸)	6中遠近	○	○	○	×	○	○	×	○	○
		4位	八木 恵美(ドコモ)	5中遠近	×	○	○	○	×	○	×	○	○
		5位	山本 勝弘(東海)	5中遠近	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	三部 (称号)	優勝	宮川 一彦(データ)	7中	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		準優勝	横瀬 正夫(東京)	6中	○	○	○	×	○	○	○	×	×
		3位	藤原 真(東京)	5中遠近	×	○	×	○	×	○	○	○	○
		4位	池田 浩次(データ)	5中遠近	○	○	○	×	×	○	○	×	×
		5位	木俣 録八(ドコモ)	5中遠近	×	○	×	×	○	×	○	○	○
	総合優勝	宮川 一彦(データ)	射詰	○	○								
特別賞	女子優秀賞	山本 輝子(北陸)											
	名越賞	宮川 一彦(データ)											

<予選中>

大会写真集



開会式



大会会長挨拶
(坂本会長)



主管支部代表挨拶
(大室 中央支部長)



選手宣誓
(関西支部・中山選手)



矢渡
(中央支部・高木教士)



団体戦 準優勝 データD



団体戦 第三位 東京A



団体戦 第三位 中央A



個人戦一部優勝 牧野選手



個人戦二部優勝 林選手



個人戦三部優勝 宮川選手
個人総合優勝・名越賞



個人戦 各部入賞者